

オレゴン便り

発行:中野壘紀子

2013年

1月



明けましておめでとうございます。2013年も、富山県の姉妹州である、アメリカ・オレゴン州より、派遣先の学校の生徒たちやこちらでの生活の様子を、このオレゴン便りを通してお伝えしていきたいと思います。今年もよろしく願いいたします。

クリスマスと新年

派遣先の Sheridan Japanese School は、12月22日から1月6日までが冬休みでした。12月20日で授業は終わり、12月21日は、生徒会と地域のボランティアの方々や保護者が主導となって、クリスマス会などが行われていました。当日は、「シークレット・サンタ」と呼ばれる、プレゼント交換が生徒間で行われました。生徒は事前に、プレゼントの希望や好きな色などを記入し提出します。回収されたその用紙から1枚引き、引いた相手に分からないようにプレゼントを用意し、当日にプレゼントが渡された後に、誰からのプレゼントかが明かされるという仕組みです。子どもたちはこのイベントをととても楽しみにしているようでした。

ホームステイ先では、12月の中旬から、クリスマスツリーのデコレーションを始めました。祖父母の代から伝わるオーナメントもたくさんあるようで、毎年、どれを飾るかを選びながら飾っているようでした。ライトから始まり、オーナメントで飾りつけが終わるまで、4～5日をかけていました。ツリーの下には、プレゼントが置かれます。

祝日である12月25日当日は、朝からホストシスターが、家族に早く起きるようにせかしていました。早くプレゼントを開けて中を見たかったようです。両親やサンタから7、8個ものプレゼントをもらったホストシスターは、興奮気味に1つ1つのプレゼントを開けていました。その様子を見て、アメリカの子どもたちにとって、クリスマスにプレゼントをもらうということがどれだけビッグイベントであるかということがよくわかりました。私もホストファミリーにプレゼントを事前に用意していましたが、みんなが喜んでくれてうれしかったです。また、ホストファミリーからも、一人一人から素敵なプレゼントをいただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。この日は、午後から家族みんなで夕食やデザートを作り、みんなで食べ、その後はゲームをしたりしてゆっくと過ごしました。



12月21日の学校での生徒たちの活動の様子(この日は、サンタの帽子をかぶったり、クリスマスに関する洋服を着ている子どもが多く見られました)

日本ではクリスマスに何をしたり食べたりするのかを聞かれたので、いちごやクリスマスの飾りののった白いケーキを食べることが多いと伝え、その写真をインターネットで検索して見せると、驚かれました。チョコレートケーキももちろん売られていますが、日本でクリスマスケーキと言うと、白い生クリームの一ごののったケーキを想像する方が多いのではと思いますし、私もそうなので、そのようなケーキの話をしました。アメリカでは、この時期にいちごを食べないので、「クリスマスケーキと言えば、いちご」という日本人のイメージにびっくりされたようです。



ポートランド市内、パイオニア・コートハウス・スクエアのクリスマスツリー



ホームステイ先のクリスマスツリー(下にはたくさんのプレゼントが)



日本の中学生から届いたクリスマスカードをもって

日本では、クリスマスが終わると一気にお正月に向けた雰囲気に変わりますが、こちらアメリカでは、1月2日になっても、ショッピングモールでクリスマスソングが流れていたり、ツリーもまだ飾られていたり、日本のお正月気分を味わうことなく、今に至っています。

ただ、新年になる瞬間は、ポートランド市内にいたのですが、カウントダウンをして大変盛り上がっていました。31日の夜8時から市内バスや電車が無料となり、夜中の3時まで延長営業されたそうです。

お正月気分を味わわずに今に至ってはいますが、学校の授業では、日本のお正月について紹介したり、「明けましておめでとうございます」と生徒たちとあいさつを交わしたりするなど、学校内で日本のお正月の雰囲気を自ら作り出しています。



日本の中学生に送った年賀状



年末に訪れたポートランド日本庭園では、新年に向けた準備が行われていました。



富山県のPRの仕事



少し前のことになりますが、先月12月13日(木)に、在ポートランド日本国総領事館(1月より、在ポートランド出張駐在官事務所)主催で、ポートランド市内のホテルにおいて、天皇誕生日祝賀レセプションが開催されました。そのレセプションにおいて私は、富山県PRブースの責任者として、富山県のパンフレットを配布したり、PRスピーチをしたりして、県のPR活動を行ってきました。当日は、現職のオレゴン州知事であるキッツハーバー知事のほかに、クロンゴスキー前州知事やアティエ元州知事といった歴代の知事の方々も来賓として出席しておられ、普段なかなかお目にかかれない方々にも会うことができ、また、これから日本に旅行に行こうと計画しているアメリカ人の方に県のPRもすることができ、とてもよい機会となりました。

富山県のブースには、オレゴン州政府に以前から保管されていた、こきりこ節で使うささらや井波彫刻で作られた獅子頭なども展示しました。ブースを訪れてくださった方々の多くが、ささらに変化興味を示され、実際に触ってみられる方も少なくありませんでした。ぜひ今後、富山県に来ていただき、たくさんの魅力的な祭りや観光スポットを訪れていただけたら嬉しく思います。また、富山の菓売りでお馴染みの紙風船も大変な人気でした。

毎年春に、ポートランド市内で、富山県主催で、オレゴン日米協会にご協力いただき、州内の大学生向けの「富山カップ日本語スピーチコンテスト」が開催されています。この1月からは、オレゴン州内で日本語を学んでいる大学の日本語クラスを訪問し、スピーチコンテストのPR活動も行う予定となっています。今は、派遣先の学校で、小中高生に日本語や日本文化を教えています。大学生の様子も見るできるので、とても楽しみにしています。



富山県に派遣されたことのある
元オレゴン州政府職員の方々と



富山県PRブースの様子



レセプションの様子